

平成29年6月20日(火)
13:30～15:00
役場 3階301会議室

平成29年度 第1回川越町総合教育会議記録

●会議参加者

城田町長 寺本教育委員長 (T) 布田委員 (N) 寺本委員 (Y) 早川委員 (H) 稲田教育長
(事務局: 学校教育課長 生涯学習課長 指導主事)

1. 開会

2. 町長あいさつ

- ・委員の皆様方には、さまざまな角度から教育について考え、取組を進めてもらっている。ご尽力に感謝する。
- ・「みんなで川越の子を育てる」という意識で、会議に臨んでいる。

3. 協議事項

(1) 「町の子どもは町で育てる」・・・行政、園・学校、家庭、地域が連携し、とぎれのない保育・教育の充実を図る(川越町教育大綱より)について

① 教育活動の重点取組(H28～H30)の進捗状況・・・・・・・・・・(資料1)

(事務局による説明)

- *学力の向上 CRT 検査の得点率は上昇しており、家庭学習の時間も増えている。学校の学力向上策の効果がみられる。
- *豊かな心の育成: ていねいな言葉遣いやあいさつのできる子は増えており、周囲を意識した行動ができるようになってきている。いじめを許さないという気持ちも、高まっている。
- *自尊感情の育成: 町の課題である。自信がない、成功体験が少ないことが原因と考え、学校活動の中に「挑戦する場」を設定している。昨年よりも指標の数値は上がっているが、まだまだである。
- *特別支援教育の推進: 特別支援教育スーパーバイザーの配置により、通常学級における支援について、教職員の意識やスキルが高まった。今後は、個別の支援計画・指導計画の更なる活用が課題である。
- *不登校児童生徒への対応: 残念ながら、不登校生の数は増えている。原因は個々によって違うが、各学校で課題を洗い出しているところである。
- *防災教育・対策の推進: 避難訓練だけでなく、防災マニュアルの見直し、防災ノートによる防災教育を、継続して行っている。

② 町長マニフェスト

(事務局による説明)

町長の公約の中で、教育に関するものは、次の4点である。

- *保幼小の連携(就学前教育の充実)
- *学習意欲と基礎学力(きめ細かな指導)
- *高齢者と子どもの交流(防犯, 交通安全)
- *地域教材の活用(職業体験, 地域行事への参画)

③ 川越町の子どもにつけたい力と、町でできること ～地域創生と学校・園～【協議】

事務局：①，②を踏まえて、川越町の子どもたちにつけたい力について、忌憚のないご意見を聞きたい。

T：まず、川越の子どもたちの課題をどのようにとらえているか。

事務局：学力の点からは、いわゆる二こぶになっている。今、下位のこぶを上を上げることに力を注いでいる。自尊感情が低く、コミュニケーション力も弱いことは、課題。

T：先生方のコミュニケーションも少ないのではないか。若手とベテランの間でOJTはできているのか？

事務局：小学校でも、組織（チーム）で対応するようになってきている。以前よりも学級間で話ができているように思う。ただし、多忙化によるゆとりのなさが、コミュニケーションを阻害している一面はある。

T：若い教員が増えてきたが・・・。

事務局：ベテランが担っていた仕事を、若手がやることも多くなった。ある意味、成長のチャンスと捉えている。

N：川越町は、小中学校の連携がしっかり取れている。学校が落ち着きを取り戻し、保護者の間でも、勉強の話題が増えてきた。何かあったときに、相談に乗ってくれる先生も多い。

T：北小学校の学年懇談会で、スマホを持たせるかどうか話題になっていた。保護者の不安も大きいようだ。

事務局：各学校で、子どもや保護者を対象に、ネットモラルの講習会は実施している。

T：所持率の実態はどうなのか？

事務局：全国学力・学習状況調査の回答により、おおよそのことはわかる。川越町の子どもの所持率は高い。今は、小4から持ち始める子が多い。

T：SNSによるトラブルはあるのか？

事務局：ある。言葉によるもの以外に、動画をとってアップする問題も出てきた。

N：CCネットを使って啓発していくのも、ひとつの方法である。

T：川越の子には、ぜひ、「断る力、Noと言える力」を付けてほしい。

Y：「自分で考え、決断し、行動する力」が大切。教育は、最終的に個々の力を付けること。

教育長：今、1時間の授業の中でも、考えて解決する方向で行っている。過程を重視している。

N：グループの活動が増えた。教えることで、理解も深まる。

T：教える子、教えられる子が固定しないのか？

Y：色々な得意な面を生かす方向で。それぞれが活躍できる場面を作ることが大事。

T：特別支援の子も含めて、良さを発揮できることが大切。勉強の楽しさも教えてやってほしい。

T：「開かれた学校」と言われる一方で、防犯上の対策も必要だが、現状はどうか？

教育長：以前より、学校は地域・保護者に向けて開いてきている。もちろん、防犯上の対策はとっている。

T：学校は、まだまだ敷居が高いと言う声も聞く。

N：つまりは、先生の人当たりのよさが大切なのではないのか。

T：教員自身の「学校を開く」意識が大切。

教育長：学校の中の話が中心となっているが、川越町は地域の方が、子どもと係る機会が多い。子どもたちも地域行事やボランティアに参加している。この力が大きいのではないか。ここに、町の子どもは町で育てるヒントがありそうだ。

T：確かに、川越の子どもは、よくあいさつをする。

N：最近、町の福祉バスを利用したが、乗降する人がみんなあいさつをしていた。あたたか

い気持ちになる。

町 長：教育委員の方々が、様々な視点で子ども・保護者の様子を見ていただいていることが良くわかった。今日知ったことは、機会をみて町民に伝えていく。

子どもが気づく・・・「気」が大切と思っている。どのように気づかせるのか。上から押さえるのではなく、自分で気づいて納得させる、最後は、社会に出て生活ができる子になってほしい。

(2) 教職員の多忙化と総勤務時間の縮減について

① 現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 2）

（事務局による説明）

*川越町の教職員の超過勤務時間は、三重県の平均よりも多い。

*総勤務時間削減のための進捗管理指標を作成し、県下一帯で取組を始めたところである。

② 学校現場における業務の適正化に向けて

（事務局による説明）

文科省が示す、業務改善のためのポイントは、次の4点である。

*教員の担うべき業務に専念できる環境を確保する。

*部活動の負担を大幅に軽減する。

*長時間労働という働き方を改善する。

*国・教育委員会の支援体制を強化する。

③ 教職員の多忙化改善に向けて、どのような環境を整えることができるか。【協議】

事務局：教職員の超過勤務は今に始まったことではないが、勤務時間縮減の有効な手段が見つけられず、苦慮している。ぜひ、外部の方の意見を聞き、ヒントがつかめたらと思う。

H：教員の仕事の詳細までは、見えない。一体、何を減らしていくことができるのか。

教育長：勤務時間は7時間45分とはいえ、勤務時間前に子どもはやってくる。子どもが帰るのは、16時前となると、勤務時間は残っていない。生徒指導等で保護者対応となると、保護者が帰ってからなので、勤務時間外になるのは、当たり前前の状態である。

N：比較的早く帰る学校とそうでない学校があると聞くが・・・。

事務局：ここまでやればOKというラインがない。追求すればするほど時間はかかる。

Y：やはり、管理職の声かけが大切ではないか。

教育長：例えば、「午後8時には仕事を終わる」のように、一定の線を示すことも必要か。職場に帰りにくい雰囲気があれば、問題。

Y：学校が作成した進捗管理指標はどのようになっているか。

事務局：超過勤務の正確な実態把握を進めている。自分の働き方を意識するところから始めたところ。

教育長：教職員の過重労働と定時退校日の導入について、保護者の理解を求めるため、教育委員会事務局で文書を作成し、配付した。

町 長：なかなか難しい問題だが、事務局として目標を示すことは大切。決めたことは守ってもらって、検証することが大事。

4. 連絡・その他

・平成29年度 学校・園公開日、授業（保育）参観日一覧・・・・・・・・・・・・・・・・（資料3）

以上